

はじめに…

『あなたがた律法学者は、わざわいである。知識のかぎを取りあげて、自分がいらないばかりか、はいろうとする人たを妨げてきた。』(ルカ 11:52・口語訳) このみことばが意味する事は何なのか…これを一人ひとりがしっかりと受け止めたうえで、生物進化論がもし真実ならばどうかのか?を考えていく必要があります。

進化論とは

生物はどのようにしてできたのでしょうか?このことについて、この日本で多くの人が学んできたのは進化論です。きっとその内容に全く疑問も持たずにいた人も多くいるかと思えます。では、次のやりとりを聞いてあなたはどう感じ、どう考えますか?男の子:「我が家ではサルを飼っていますが、いくら眺めていても人間になりそうにありません。いつサルは人間になるのでしょうか?」生物学者:「長い、長い時間の中で徐々に人間に近づくのです。」…この答えは「時間」というペールによって真実をぼやかされているように感じないでしょうか。私たち人類はこの事実をこの目で確かめられたわけではありません。多くの生物学者が徹底的に調べ観察しているにもかかわらず、未だこのことが真実かどうか実証できたわけではないのです。

進化論・創造論を語るうえで大切なこと

進化論に対し、創造論は聖書の創世記 1 章から書かれている内容を見るとわかります。このことについて、自分の目で世の初めを見たわけではないから納得がいく答えは得られないという方がいらっしゃるかもしれません。しかし、ここに 1 つの答えがあるとすれば、その答えを追求してこめる価値があります。この天地に満ちているものをじっと眺めるだけでどれほどの感動と発見があるのかあなたは知っているでしょうか。ぜひ神が造られた自然と、どこまでも精巧で知恵に満ちて機能性に満ちて、人間にとって有用な生き物たちを感動をもってみようではありませんか。今はテレビやゲームなどの影響が大きい世の中ですが、そのようなものに時間を費やすよりも被造物から感動を得て命の時間を大切に使う必要があるのではないかと私は考えます。

いま立って考えてみよう

①生物進化はいつでもいいような問題ではない。私たちの人生観・世界観が変わってしまう

先述したように生き物が存在することについて私たちが考えるとき、2つの考え方があります。ひとつは、万物がひとりでに偶然にある日突然存在するようになったとする「進化論」、もうひとつは万物が創造者によって造られたとする「創造論」です。どちらが本当なのかの前に、このふたつのどちらを信じるかで人生観世界観が全く変わってくる大問題なことを知っておきましょう。私たち一人ひとりがこの事に向き合うことはとても大切な事です。

②専門家に任せすぎた

今までこの問題について、多くの人は専門家に任せて自分で考えることをしてきませんでした。実は私たちが偉い人が作ったから間違いないだろうという考え方こそ大変危険なことだったのです。ひとつの例を挙げるならば、私たちは東日本大震災で原発の問題に直面しました。今まで絶対大丈夫と言われ続けてきた安全神話が崩壊を目の当たりにしたのです。もっと昔からのことをいうと、今でこそ地動説が正しいことと私たちは知っていますが、昔の人たちは千年以上もの間も天動説が正しいと信じていました。学者が言ったことを鵜呑みにし信じきっていた結果がこれで

す。しかも天動説が間違いだと分かったからといって学者は誰も謝りもしませんでした。やはり、専門家に任せすぎしてしまうのではなく視点を改めて自分で物事をみていく必要が私たちにはあるのです。

③いま進化論の雲行きが怪しい

私たちが今まで神がかり的に信じきっていた進化論の考え方に暗雲が立ち込めてきていますが、そんな時だからこそ私たちは一人ひとりがどう考え、どう生きるかをみつけることが重要です。現代において、自分の生きることに對する意味が分からない人がどれほどたくさんいるのでしょうか。自殺する人の多くは就職や病気、結婚などの問題にぶつかったり、自分は何のために生きているのを見いだせなかったりした人たちです。もしその人たちが創造論を信じたならば、あなたは高価で尊いものとして神様が創造され、生きる意味を与えられていることに気づけたかもしれません。

もしも生物進化論が真実ならば…

人間が偶然に発生し、偶然の積み重ねで自然に進化したことになれば、この世に絶対者または計画者は必要となくなり、結果次のことが正しくなります。「人間には生きる目的はない」「自然界での生存競争・弱肉強食が加速する」「道徳的責任の入る余地がなくなり、人種差別やいじめを避けられない」「国家主義、覇権主義がまかり通り、福祉政策・貧民救済・慈善活動は根拠を失う」…はたしてこれが真実といえるのでしょうか。ユダヤ人を中心とした大量虐殺したヒトラーをはじめ、日本においても進化論を信じている人が殺人を犯したという事実があります。しかし、弱い者は生きる価値がない、弱い者は常に強い者のエサになる運命を背負っているというのは果たして正しいのでしょうか。そのような理由で殺人を犯す事は決してあってはならないことです。ヒトラーの劣悪な行為は多くの有力者の協力がありました。このことから人間の罪がいかに深いかを思い知らされますし、自分たちがどう生きるか真剣に考えていく必要があります。

まとめ

強くなければ生き残れないという自然淘汰の考え方が正しいとすると、長い生存競争の中で弱者とされる動物は絶滅していてもおかしくありません。しかし、鯨の餌となる鯖は今もなお、数を減らしてはいません。同じように食われる運命にあるとされる動物も天敵によって何匹かは犠牲になったとしても決して全てが滅ぼされることはないのです。私たちはこういったことから自然淘汰の考え、自分が誰より優れているかよりも大切なものがあることを知っています。しかし私たちの心にはいつからか人を差別する心、例えばじめて自殺する人を見て弱い人は仕方がないと思ってしまいう心が知らない間に芽生えていることがあります。あなたの心にもそのような思想はないでしょうか。もしあるならば、私たちはこの思想のためにとりなして祈らなければいけません。神様の真理に従い、知識によって生きるのではなく、神の愛と恵みによって生かされていることを私たちがいつも感じられるように、イエス様の教えに従い歩む人生を自分で選び取っていきましょう。